校長室だより
No.　6
平成 29 年 5 月 17 日(水)

強く　やさしく

六ツ美中部小学校校長
加藤嘉一（かとうよしかず）

二村さんに感謝　－体験できる幸せ　体験から生まれる学び－

【5月1日　二村さん親子（写真左・中）と成瀬さん（写真右）】

本年度も２年生・５年生が田植え体験を行うことができました。「行うことができた」という表現をしたのは、これまで２０年以上本校の子供のために田植え・稲刈り体験をさせてくださっていた二村さんが、昨年の稲刈りを終えた頃、「年齢も重ねてきたため継続が難しくなってきた」という御相談があったからです。田植え自体も、手で植えた経験のある方というのは、実は６０歳代の方くらいまでで、手植え体験を指導してくださる方は、なかなかいないのが実情です。

しかし、二村さんの息子さんが、「そんなに困っているのなら」と、忙しい仕事の合間をぬって、しかも数人の仲間を集めてくださり、体験を実現することができました。本当にありがたいことです。

改めて、今年の子供たちの体験記録を読んでみました。まずは２年生。下線が引いてあるところは、わたしの主観ですが、体験から子供の学びがしっかりあったと読み取れる部分です。

田うえをしたよ　【５月１日　２年の記録カードより】

ぼくは、きょう田うえをしました。さいしょは、足がはまって、うごけなかったけど、すぐにあるけるようになりました。いねをうえるのは、むずかしかったです。またやりたいです。（Ａさん）

きょう、たうえをしました。いねをうえるときは、きれいにやりました。つぎに五年生になったら二年生の子をおしえたいです。どろんこがぶにょぶにょしてきもちよかったです。またやりたいです。（Ｂさん）

まずはＡさんの記録。「足がはまって、うごけなかった」は、この子の一番驚いた部分が表れたのだろうと思います。田んぼの中に入ったことのある方なら分かると思いますが、代かきされた土は粘土のようになり、足にねっとりまとわりつきます。足が思うように動かせず「はまって」しまったことに、これまでの経験にない驚きを感じたのでしょう。「さいしょは・・・けど、すぐに」と、時間を追って描写できているところにも驚きます。

またＢさん。同じように足を踏み入れたけれども感じ方が違います。Ｂさん

は「うごけなかった」ことより、「ぶにょぶにょしてきもちよかった」のです。そして、５年生とともに活動したからでしょう。「五年生になったら二年生の子をおしえたいです」と高学年への憧れと目標をもちました。

次は５年生。Ｃさんも２年生と同じように「足がうもれて歩くのがたいへん」だったことを書いていますが、「ずっと立っていると」と時間の経過や「どろがのっていて重かった」と、その理由まで足の感触をもとにしっかり書いています。さらに、「なぜ土がこんなに水っぽくないといけないのか不思議」と実感が問いに高まり、「苗が育ちにくいとわかりました」と、自分の中で学びが進んだ様子が表れています。

Ｄさんは、苗を植えるために足あとを消さなければいけないのに「うまく消せず」「てんやわんや」と気持ちの動きを上手に表現し、「機械と人をくらべると」と、学びの方法である「比較」の見方、考え方で記録をまとめています。

田植えをふり返って　【5月1日　5年の記録カードより】

今日、五年生と二年生で田植えをしました。田植えは二回目だったので、かんたんでした。しかし、ずっと立っていると足がうもれて歩くのがたいへんでした。田んぼから出たときに足の上にどろがのっていて重かったです。それに、なぜ土がこんなに水っぽくないといけないのか不思議でした。でも、それがわかりました。田植えでわかったことは、土は水っぽくないと稲の苗が育ちにくいとわかりました。お米を早く食べたいと思いました。（Ｃさん）

今日ぼくは、田んぼで田植えをしました。なえを植えるときに、足あとを消すんですが、うまく消せずに、なえがういてしまいました。足がぬけず、足あとは消えず、もうてんやわんやでした。でも、なれてきてちょっとうまくなって、少し速く植えることができてました。機械と人をくらべると、機械の方が速いし、つかれにくいですが、人の手でやった方が達成感があっていいと、ぼくは思いました。（Ｄさん）

今日、ぼくたちと二年で二村さんの田んぼに行ってなえを植えました。ほかのはんの人たちが植えている間に、どろで遊んでいると、カエルが泳いでいるのを見つけました。次にまたカエルがいました。カエルがいっぱいいたということは、生物が住みやすい場所なのかなと、ぼくは思いました。（Ｅさん）

Ｅさんは、「カエル」が何度も登場するように生き物に見方や考え方、感じ方の中心があったことを読み取ることができます。子供の見方や考え方、感じ方は様々です。「いっぱいいたということは」と論理的に考える姿勢も見られます。

【5月1日　田植えに向かう２・５年生】

わたしは、これからの学校の最も大切な使命は、「体験」と「想像・創造」の場をいかに保障するかではないかと考えています。体験で得た感覚や理解、考えを、言葉や絵などに表現することは、インターネットや本の調べをもとにした記録より数段質が高く、擬似体験よりも五感を使った体験は、大きな心の動きと学びがあるということを、これらの記録から読み取るのです。